

### 1 自己評価及び第三者評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2890600063		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター神戸西代 1階さくら		
所在地	兵庫県神戸市長田区西代通4丁目7-1		
自己評価作成日	平成28年1月15日	評価結果市町村受理日	平成28年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2890600063-00&amp;PrefCd=28&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2890600063-00&amp;PrefCd=28&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成 28年 3月 11日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者が安心してゆったりと自分の思いを発散しながら、自分らしく暮らしていただけるように、温かい、優しい空気の感じられるホームを目指し、職員の育成に特に力を入れています。  
入居者様にとってもスタッフにとっても居心地の良いホームであるよう、常にみんなで話し合っ決めて等、コミュニケーションを大切にしています。  
ご家族様と一緒に一人一人の入居者様の生活を支えられるよう、ご家族が足を運びたいくなるホームを目指し、ご家族様との連携を密にしています。

**【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

町に暮らすと理念に掲げ、地域の関わりを大切にし利用者支援を展開しています。民生委員など地域の方々から地域行事への声掛けがあり、参加できる方が減ってきている中でも地域の合同防災訓練や公園の植栽に参加しています。歌や笑いヨガ、自力整体やヘルマンハープなど多くのボランティアの来訪があったり、近隣の保育園と双方向での交流や中学生の就労体験を受け入れるなど、子ども達との交流は利用者の喜びに繋がっています。また家族の関わりを大切にしており、家族会が年2回開催され意見交換がなされたり、花見や運動会など家族と共に利用者支援に向けた取り組みが行われています。職員間の連携も良好で新任職員を育成しながらそれぞれのユニット毎に利用者が自分らしく暮らすように支援しています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および第三者評価結果

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	町に暮らすという理念を毎朝朝礼で唱和し、実践に向けて夏祭り、保育園との交流会などを通して地域の人をホーム内に招くなどしている。	「町で暮らす」と開設時に作成された理念は見直しを行ったこともあり確認し継続をしています。街並みに溶け込んだ建物は暖かい時期は玄関を開放する時もあり、地域との関わりを大切に考え日々の支援に努めています。法人の介護理念と共に朝礼で唱和し意識付けています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公園の花の植え替え、地域の消防訓練にも参加し、夏祭りを開催、地域の方々を招き、地元の保育園、小学校、中学校とも交流をしている。	民生委員や安心すこやかセンター等地域の方々から行事案内が届いています。利用者と共に地域の防災訓練に出席したり公園の植栽を手伝い、散髪屋や買い物には電気店など出来るだけ近隣の店を利用して関わりを深めています。また、事業所の祭りは近所にも呼びかけ、経年の中で定着して親子連れや子供同士での参加も増え、楽しい行事となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症の疑いのある方の情報等を地域包括支援センターや他のグループホームの運営推進会議等に情報として提供したり、見守ったりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業報告、研修報告等の報告と、他の知見を有する人などから意見をいただいたりしている。運営推進会議で地域の民生委員さんからの情報や紹介を頂き、サービスの向上に活かしている。	2か月に1度の運営推進会議では行事やヒヤリハットなど運営報告を行い、参加者から意見を貰っています。参加者には同業者が知見者として参加しており共に地域貢献についても話し合われる等有意義な会議となっています。今後に向けて更に多くの家族の参加を課題にした取り組みも考えています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長田区グループホーム専門部会で市町村担当者との交流の場があり、他のグループホームとの意見を交わしながら、助言もいただき、活かしている。	疑問や課題、分らない事等があれば市に電話等で聞いています。区役所で開催されるグループホーム専門部会等でも市職員と関わりがあり、話し合う機会となっています。また、定期的に研修情報が届き、可能な限り出席しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回以上の研修を実践し、スタッフの新規採用時には必ず高齢者虐待についての研修で、身体拘束について研修をしている。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年2回の定期的な研修、報道や話題に上るような事があれば随時研修を行い、また何気なく言う言葉でも拘束になること等を学んでいます。玄関は開放していますが、フロアは何度か離設があったため施錠しており、落ち着けば以前の様に開放して行くつもりです。利用者には気分転換を図ってもらえるよう心がけ、出かける機会を作り閉塞感の無いよう支援しています。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	年に1回以上の研修を実践し、スタッフの新規採用時には必ず高齢者虐待についての研修で、身体拘束について研修をしている。また、ニチイの「しない。させない。見逃さない。」というスローガンを掲げ、通報先も掲示して取り組んでいる。	身体拘束と共に年2回の虐待防止の研修を行い理解を深めると共に、法人によるスローガンに沿って「しないさせない見逃さない」支援に努めています。毎月の会議では虐待に繋がるようなことの無い様に職員間でもアドバイスし、日常的にも管理者から伝えていきます。	

ニチイケアセンター神戸西代(さくら)

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回の研修を位置づけし、学ぶ機会を持つようにしているが、深い理解は出来ているとは言えないが、成年後見制度を申請しているご家族もおられる。	職員は研修で権利擁護など学ぶ機会があり、利用者には後見制度を活用している方もいます。入院時などには後見人に連絡を取る等の機会も有り、入居時には権利擁護に関する制度についても説明し理解を得ています。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時は、時間をかけて説明し、改定等の際は、家族会を開催し、丁寧に説明を行なうようにしている。	契約時には書面に沿って説明し特に重要事項説明書は時間を取り納得が得られるようにしています。また制度の改定時なども項目ごとに確認を行い、個別での契約時はじめ家族会で説明を行い了解を得ています。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度は顧客満足度調査を実施し、利用者やご家族の意見や要望を表す機会を設け、出来る限り要望に沿えるよう、スタッフ間で話し合っ改善に努めている。	法人による満足度調査では、法人から結果報告がされています。家族の面会も多く質問や意見を聞き、運営推進会議はじめ家族会でも意見を聞いています。リハビリの要望や靴の買い替え依頼など個別の意見に対しても職員間で検討し、可能な限り要望に応じるよう努めています。面会の少ない家族には電話などを通じて意見を聞くようにしています。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議、ユニット会議などで意見や提案を聞く機会を設けている。	職員間は意見を言いやすい関係にあり、支援方法など日々の観察で気づいたことなどを話し合っています。月2回の会議や申し送りノートの中でも意見が交換がなされ共有しています。また個別でも意見を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度などで条件の向上の機会を設けている。資格取得の斡旋などスキルアップに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の研修、法人の研修、長田区グループホーム専門部会の研修、その他外部の研修の案内を出し、日程調整などを含め研修を受ける機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で管理者同士、職員同士の研修の機会を作り、サービスの質を向上させていく取り組みに参加している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入の段階で、本人が困っている事、不安な事、要望等をアセスメントし、ご本人がホームで安心して暮らせるよう関係作りに努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入の段階で、家族等が困っている事、不安な事、要望等をアセスメントし、ご家族がで安心していただけるよう関係作りに努めている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の段階で、本人が困っている事、不安な事、要望等をアセスメントし、他のサービス利用も含めてご本人に一番適切なサービスの案内に努めている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を送る上での様々な仕事を一緒にしていただいたり様々な事を教えていただいたりし、感謝の言葉を伝えるように支援している。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは月1回のお手紙以外に連絡を密にし、ご家族の来訪を笑顔でお迎えし、ご家族様に様々な場面で関わっていただけるように声かけしている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の親族、友人のご訪問を心から歓迎し、お部屋でゆっくり過ごしていただけるようお茶やジュースを出すなどもてなすように心掛けています。時にはこちらから馴染みの場所に出かけていくこともある。	馴染みの店に出かけて犬と戯れたり、散歩を兼ねて実家に立ち寄る等利用者のこれまでの生活を大切にしています。家族や友人の来訪時には、来られた方の意向に応じた場所で寛いでもらい、家族の宿泊なども援助しています。同窓会参加や法事への出席時には服装を整え送り出す手配や孫の来訪を夏祭りに合わせ案内するなど、馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援しています。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様それぞれ受け止め方や伝わり方が違い、トラブルになる事もあるが、職員が間に入ったり、他の事に意識を向けたり、席替えをしたりして関係の改善に努めている。		

ニチイケアセンター神戸西代(さくら)

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要に応じて相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向をお聞きできる時にはお聞きし、困難な時には仕草や表情などから本人本位に検討し、意向を把握できるように心掛けている。	入居前には自宅を訪問し、生活の様子を把握したり家族に利用者の生活歴や生き方などを記録してもらい、今迄利用していた事業所からの情報なども加味してアセスメントを行っています。入居後には日々の生活の中から利用者の訴えや希望をもとに、職員が利用者の立場に立って話し合い、利用者本位の支援となるよう努めています。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントし、その後も機会あるごとに日々伺いながら、情報の把握に努めている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートにセンター方式を使用し、ユニット会議などで全スタッフで情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、アセスメントの実施と共にスタッフ間で事あるごとに話し合い、ご家族の意見も取り入れた介護計画を作成している。	日々の記録や利用者の訴えなど心身の状況や思いに沿ったアセスメントをもとに介護計画を作成し、3か月ごとにモニタリングを行い、短期目標の3か月ごとに見直しています。見直しにあたって職員は会議で検討し、再アセスメントに繋がっています。訪問時の家族の参加を得たり、必要に応じて往診時に聞き取った医師や訪問看護師からの情報を計画に反映しています。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録への詳細な記録と共に業務管理日誌及び連絡ノート等で情報共有に努め、その都度ケアの工夫については実践し、介護計画の見直しを図っている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じ、その時々生まれるニーズに出来る限り対応できるよう、柔軟な支援に努めている。		

ニチイケアセンター神戸西代(さくら)

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物にはできるだけ近くの店を利用し、時には利用者様と一緒に買い物に行く機会も作り、公園で花の植え替えを地域の人と一緒に取り組んだり地域の資源を活かせる様に努めている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医に往診に来ていただいているが、ご本人ご家族のご希望によるもので、お一人ずつ同意書を交わしていただいている。また、訪問看護、提携医と連携を密にしながら適切な医療を受けられるように支援している。	入居に当たって従前の医療機関の継続は可能であることを伝えています。継続して受診している利用者には基本的に家族が同行し、日々の様子や薬の保管状況などを伝えると共に家族から受診結果を聞いています。希望や必要に合わせて皮膚科や眼科など受診の支援を行っています。協力医による月2回の往診や24時間の連絡体制などもあり、相談や指示を得ています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日常と違う様子やバイタル測定値を訪問看護に伝え、必要があれば往診に来ていただくなどして提携医と連携を密に取りながら適切な医療を受けられるように支援している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時に、認知症による困り事が減らせるよう、ホームでのケアの方法、生活の継続ができるだけできるように情報をお伝えし、病院関係者と連携を取っている。	入退院時や緊急時には、ホーム長が付き添って対応するようにしています。入院のリストに沿った準備や見舞い、着替えを届ける等を行っています。退院予定が決まれば家族との連絡をもとに安心してホームに帰れるよう配慮しています。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について、ホームのできることの限界をお伝えしながら、ご家族間で早い時期から話し合っただき、情報を共有しながら支援に取り組めるようにしている。	入居時には重要事項説明書に沿いホームの出来る範囲等について説明しています。常時医療が必要となった場合にはホームでの対応は難しく、家族や医師の協力など条件が整えば見取りの支援も可能で、実際に看取りを行った経過も有ります。職員は何度も話し合い対応を検討し、チームで支援を行っています。また職員の不安を受けて連絡体制などを整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回緊急時対応について研修を行っており、利用者の急変、事故発生時に慌てないで対応できるようにしている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2階消防署の協力を得て、消防訓練を実施し、地震の際や水害の際の避難についても研修を行なっている。地域にも避難訓練時には声かけしている。	年2回昼夜想定でそれぞれ消防署の立ち合いで避難誘導訓練は行われ、夜間の出火場所を想定し各階3名の夜勤者の動きを打ち合わせるなど具体的な想定で訓練がなされています。地域住民にも声を掛け参加をえたり、また地域の訓練にも参加し、緊急時の避難場所の確認など話し合っています。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をする努力をしている。できていないスタッフには、リーダー等が注意したりしている。	年間計画に沿って研修があり、尊厳や入居者への対応、接遇などを学んでいます。新任職員には日々の支援の中で声掛けや対応について指導する場合も有り、不適切な対応があれば気づいた人が注意やフォローをしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でできるだけご本人が自己決定できる場面を作れるよう、入浴時の声かけなども工夫している。また、声かけについて、接遇・マナーに十分な配慮を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴拒否のある方等に、午前中からいつでも入浴できるようにし、ご本人の気分で入浴できるようにしている。出来る限り業務に追われることの無い様心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれや身だしなみができるよう、外出時などは帽子を被って頂いたりする。気候に配慮した服装を心がける。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの出来る部分で参加できる人には参加していただけるように支援している。その時には味見などしながら、相談しながら作るようにしている。	献立は利用者の希望も取り入れて毎日職員が買い物に行き食事作りをしています。行事には利用者と共に寿司を作ったり、ファミリーレストランや回転寿司などの外食や花見には弁当を取っています。また誕生日にはケーキを準備したり白玉ぜんざいを作る等、食が楽しいものになるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が確保できにくい入居者にはゼリー等で補ったり比較的摂取できる時間帯、好みの飲料を提供している。食べられる量や栄養バランスをお一人お一人の状態に合わせて準備するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施できるように声かけ、支援しているが、拒否が強く、できていない方もおられる。		

ニチイケアセンター神戸西代(さくら)

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄が出来るよう、排泄のパターンや個々の行動観察により排泄の欲求を見極め、トイレ誘導を行っている。	排泄は基本的にはトイレでの排泄を心掛けています。二人介助の重度の方も含めて個々のパターンやサイン、行動を見て声を掛け誘導し、トイレでの排泄ができるよう支援しています。昼夜の状況を職員間で検討し、パッドや紙パンツの適切な利用に繋げています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬も使用しながら、出来るだけ自然に排便できるよう、食材を工夫したり、飲むヨーグルトなどを飲んでいただくようにして便秘の解消に取り組んでいる。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている。また拒否があっても時間を置いて声かけするように努めている。	入浴は主に午後の時間帯に週2回を目途に入ってもらっています。毎日の希望にも応じていたことも有り状況が合えば可能となっています。一人ずつ湯を替え利用者に合わせた湯温や量を調整し、早めに浴室を温めゆったりした入浴に繋げ、季節のゆずや菖蒲湯を楽しむことも有ります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて、しんどそうな時にはこちらから居室誘導の声かけを行い、少し休んでいただくよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ一人ひとりが薬の用法や用量について、理解できるようには努めている。服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活に張り合いや喜びのある日々が過ごせるように、役割を持って生活していただけるように支援している。また声かけのしかたにも十分な配慮を行っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	難しい日もあるが、出来る限りご本人の希望に沿って戸外へ出かけられるよう支援をしている。	近くの公園や暖かい気候の時にはウッドデッキでのティータイムなど時間があれば少しでも外の風を感じてもらえるように心がけています。初詣や春・秋の遠足で水族館やポートタワーに出かけたり、便りで家族に呼びかけて花見にも出かけています。また個別の要望にも応え口紅を買いに行くなど利用者の思いを受けて外出に繋げています。	



ニチイケアセンター神戸西代(さくら)

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い金でのお買い物などでご本人がお金を持つ機会を確保している。財布にある程度の金銭を持っていただいている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族にご本人から電話したいという要望があれば可能な限り対応している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で過ごしていただいているような雰囲気作りを心がけ、入居者の混乱や不快を招かないように分かりやすい表示や配慮、工夫をしている。	玄関や階段の踊り場には利用者の作品や生け花が飾られ、リビングにはソファや椅子が随所に配置され、利用者の気分に合わせて座れるようにしています。温湿度を利用者の声も聴きながら調整すると共に日々の清掃は職員が行い清潔に努めています。また利用者の出身地を地図で表し会話が弾む機会づくりを行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お独りになりたい時にはご自分の居室へ行かれたり、一人用のソファに腰掛けたりしながら、思い思いに自由にいろんな椅子やソファに座っていただけるように配置している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には出来るだけご自宅でご本人が使っていた使い慣れた家具などを持ち込んでいただき、ご本人が心地よくご自宅のように過ごしていただけるよう工夫をしている。	使い慣れた筆筒や本棚などを家族と相談しながら設置されており、籐椅子や家族写真などで落ち着ける空間作りがなされています。孫の結婚式の写真、昔趣味にしていたマラソンの写真などが飾られていたり、家族が居室のベッドに合わせて作った棚がある等居心地よく過ごせるように配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ一人ひとりの力を活かしながら自立した生活が送れるよう、場面場面で活躍できるようにしている。安全に暮らせるように環境づくりを心掛けている。		